

### 【今日の説教から】

クリスマスの時、どうして私たちは心が躍るのでしょうか。子供の時の数々の包装紙にくるまれたプレゼントの記憶のゆえでしょうか。

クリスマスはイエス様の誕生日。主人公はイエス様です。そして、クリスマスは十字架にかかって死ぬために生まれたイエス様の誕生日です。

それはそれは神様からの大きな贈り物が捧げられた日、それがイエス様のお誕生日です。

「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」

「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。」

「神には、なんでもできないことはありません」

「主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」

「わたしの魂は主をあがめ、

わたしの霊は救主なる神をたたえます。」

「力あるかたが、わたしに大きな事をしてくださったからです。」

「主は、あわれみをお忘れにならず、その僕イスラエルを助けてくださいました、…とこしえにあわれむと約束なさったとおりに」

これらがあふれるクリスマスの祝福です。

神様は私たちを見ておられます。そして私たちに恐れるな、恵みを授けると語られるのです。神にはできないことはない。必ず成就する。力ある方が私に大きな事をして下さった時なのです。

皆様おはようございます。

昨日、おとといは最高気温が20度近くまで上昇しました。暖かい日々は大歓迎ですね。ですが、寒暖の差がありますと体が疲れやすくなりますので、皆さまどうぞお気をつけください。今週はずっと暖かさが続くようですね。インフルエンザや風邪が流行っていますのでどうぞお気をつけください。

さて主のご降誕を待ち望むアドベントも第2週となりました。

今日はマリアへの受胎告知の場面です。

クリスマス、それは私たちにとって喜ばしい時です。しかしどうしてクリスマスは私たちにとっての喜びなのでしょう。

町中がきらびやかになるから、プレゼントがもらえるから、クリスマスや年末年始の休暇があるから…。クリスマスはイエス様のお誕生日です。お誕生日の主人公は生まれた人ではなく、今のクリスマスはお生まれになられたイエス様をそっちのけにしたお祭りのように見えますね。

クリスマスはイエス様のお誕生日で、クリスマスの主人公はイエス様のはずです。イエス様がこの世界にお生まれになったということ、どうしてイエス様が人としてお生まれになったのかと言えば、私たちのために十字架にかかれるためにお生まれになった、十字架に死ぬためにお生まれになったのです。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。

独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

これは、聖書の中の聖書と呼ばれる聖書の言葉です。聖書を一言で言ったらこれであるというような言葉です。

神は与える方です。

神様は愛されるお方です。神様がお与えになられたものは愛するご自分の子であるイエスキリストでした。

古今東西、人はその営みが正しくないのを知っていけにえを捧げたり、大きな存在を前にささげものをしたりして、自らの身の守りと幸福を願ってまいりました。今日に至るまで、世界ではどれほど多くの捧げものが、神様への祈願と共に捧げられてきたことでしょうか。ある宗教は、祈願のために自らの子をも火に捧げたりしたものでした。人身御供と呼ばれる出来事です。

しかしキリスト教は、いえキリスト教の神様は、与えるお方です。この世界のすべてを創造され、この方によって成らなかつたものはこの世界のどこにもないのですが、そのお方が自分の造られた人間、その私たちのために、神ご自身が、誰によって助けってもらう必要もない全地全能の神が、人を思う愛のあまりに犠牲を捧げ、その神の愛する御子を十字架にかけたのです。その子イエス様がお生まれになったのがクリスマスでした。宿は人で一杯で、馬小屋の飼い葉おけの上に、全知全能の神様の一人子は生まれました。そして人々を助け、奇跡と癒しを与えたイエス様は町の外で十字架に処刑されました。ここに愛があります。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。

独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

ですから私たちはクリスマスを祝います。

今日の聖書の箇所からクリスマスの神様からの力強いお慰めの言葉を味わいましょう。

1:26 六か月目に、御使ガブリエルが、神からつかわされて、ナザレというガリラヤの町の

一処女のもとにきた。

1:27 この処女はダビデ家の出であるヨセフという人のいいなづけになっていて、名をマリヤといった。

1:28 御使がマリヤのところにきて言った、「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」。

クリスマスの祝福の御言葉、それは「おめでとう。恵まれた方、主があなたと共におられます」という御言葉です。

私たちはどんなにか恵まれて祝われるべき存在なのでしょう。主が私たちに目を留めて、愛と恵みにあふれた顧みをして下さるとは、私たちは何と恵まれているのでしょうか。その恵みに気付かせてくれるのが、私たちにとってのクリスマスの恵みです。

私たちは日常の生活の中で、どれほどこのことに意識しているのでしょうか。おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられます。何という、温かい、力強いお言葉なのでしょう。

私たちはしばしば信仰の中にいながら、理想と現実と言いますか、信じていながらも大変に不安に思う事があるのではないのでしょうか。信じているのになぜと、不安になったり、こんなに困難な状況の中では何も私たちに助けるものはないのではないかと意気消沈したりもします。「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」との言葉は、祝福の言葉なのですが、困難と苦難の中にあるがゆえに、額面通りに受け取れない時があります。

1:29 この言葉にマリヤはひどく胸騒ぎがして、このあいさつはなんの事であろうかと、思いめぐらしていた。

その神様の恵みのお導きのはずが、何か自分には望ましいもののように思えずに、胸騒ぎがする、思いめぐらして、考え込み、悩みの中に陥り、しかし何の解決もない時があります。

1:30 すると御使が言った、「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。

ここで私たちに語りかけられるのが、「恐れるな」との言葉です。そうです、私たちは本当に、本当に、いとも簡単に恐れに閉じ込められるのです。怖い、恐ろしい、不安、思い悩みの中に心乱れ、胸騒ぎもするのです。しかしそれでも神様は天使を遣わして、こう語られるのです。「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。」

私たちのためには、あくまで恵みなのです。「おめでとう、恵まれた方、神様が共におられます。恐れるな、あなたは神から恵みをいただいているのです。」この御言葉を本当に額面通りいつも受け止めることの出来る人は幸いです。

ローマ 8:28 神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。

1:35 御使が答えて言った、「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう。

1:36 あなたの親族エリサベツも老年ながら子を宿しています。不妊の女といわれていたのに、はや六か月になっています。

1:37 神には、なんでもできないことはありません」。

次に語られる恵みの言葉は、「神には、なんでもできないことはありません」です。

私たちは恐れあまり、私たちは恵みのもとにはいない、私たちには神様は共にはおられないと思い込みます。しかし聖書はどちらとも事実と正反対であって、真実は「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」と語られるのでした。

そして私他のもう一つの思い込みは、神様であったとしても、すべての事まではお出来にならないのではないかというものです。

この状況、この問題、この試練、この病、この人間関係、これだけこじれ切って、これだけ時間を経過してしまったのならば、さすがに神様であろうとも難しいのではないかとの思いです。

しかし御言葉にはこうあります。

「神には、なんでもできないことはありません」、  
「神にできないことは何一つない。」

私たちもまた、この御言葉に真剣に向き合いたいと願います。私は神様からの、神の子への特別のご愛顧と恵みを頂いている。そしていつも神様は私たちと共におられる。そして、神様に出来ないことは何一つない。

そうであるならば、どうして私たちはあのこと、このでいつも胸を痛め、胸を煩わせ、胸騒ぎをさせるのでしょうか。戸惑うことがあるのでしょうか。どうしてそんなことがありましようかと問うのではなくて、そんなことは起こりえないと否定するのではなくて、神様が恵

んでくださり、おめでとうと言って愛して下さり、共にいていつも守っていて下さるのなら、はい、私は未来永劫の祝福と守りを信じます。心を惑わさず、胸を痛めずに、ひたすら信じて従ってまいりますと言い得るのではないのでしょうか。

1:38 そこでマリヤが言った、「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」

この38節の言葉は、この主の女奴隷である私を見て下さい、あなたのお言葉の通りに私になりますようにとの意味です。私がここにおります、どうぞ私を見て下さい。あなたは私をご覧になっておられます。どうぞ最高最善のあなた様のお思いのままになさってください。それが私の最高の幸せであることを私は知っておりますとの告白です。

1:44 ごらんなさい。あなたのあいさつの声がわたしの耳にはいったとき、子供が胎内で喜びおどりました。

1:45 主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」。

1:46 するとマリヤは言った、「わたしの魂は主をあがめ、

1:47 わたしの霊は救主なる神をたたえます。

1:48 この卑しい女をさえ、心にかけてくださいました。今からのち代々の人々は、わたしをさいわいな女と言うでしょう、

1:49 力あるかたが、わたしに大きな事をしてくださったからです。そのみ名はきよく、

1:50 そのあわれみは、代々限りなく／主をかしこみ恐れる者に及びます。

主はご自身のお言葉でこの世界をお造りになられました。ヘブル11章にこうある通りです。

11:3 信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉で造られたのであり、したがって、見えるものは現れているものから出てきたのでないことを、悟るのである。

神様のお声とのお言葉、これほど力強い者はありません。私たちはこの神様のおことばをこそ信じて生きていきます。神様は大きなおおきにお方、大きな愛と物事を成し遂げる力をお持ちのお方です。

「主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」

「力あるかたが、わたしに大きな事をしてくださった」のです。

私たちもまた、この信仰にあって生きていくことが出来るのです。

「そのあわれみは、代々限りなく 主をかしこみ恐れる者に及びます」

1:54 主は、あわれみをお忘れにならず、その僕イスラエルを助けてくださいました、

1:55 わたしたちの父祖アブラハムとその子孫とを とこしえにあわれむと約束なされたとおりに」。

主のお約束をどこまでも握りしめ、現実生活の中にあっても戸惑うことなく神様に信頼し、その恵みと、共にいて下さる神様のご真実を信じて、神様に出来ないことは何一つないと信じて、どうぞ私をご覧ください、神様のお言葉がこの身になりますように、私は何を恐れましょう。現実を恐れず、ただ神様を畏れます、力あるかたが、わたしに大きな事をしてくださいましたと、小躍りしながら、主の憐れみにただすがりつつ進みたいと願うのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。恵まれた人、おめでとう、主が共におられる、恐れるな、神にはできないことは何一つない、主がお語りになったことは必ず実現する、信じる者は幸い、力ある方が私に偉大なことをして下さった、主はあわれみをお忘れにならない、あわれむと約束なされたとおりに、とのクリスマスの喜ばしいメッセージをありがとうございます。どうぞ寒い日々も私たちと家族の健康をお守りください。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。  
主イエス様の御名によって祈ります。アーメン